

湘北短期大学 高大連携通信 Vol.11

平成28年
3月14日(月)発行
湘北短期大学
リベラルアーツセンター
E-mail: LAC@shohoku.ac.jp
TEL: 046-247-3131
FAX: 046-247-3667

小さな研究会の大きな意義

リベラルアーツセンター長 岩崎敏之

日時 平成28年2月9日(月)

16時40分～18時10分

会場 湘北短期大学図書館

アクティブラーニングスペース

テーマ 「アクティブラーニング型授業の

評価方法」

概要 今回で第6回目となる高大連携教育研究会を実施しました。初めに本学におけるルーブリックを取り入れた授業評価の実例が紹介され、その後アクティブラーニングの評価方法についてグループに分かれて話し合いました。当日は、連携高校5校5名、湘北短期大学からリベラルアーツセンターのメンバーを中心に教職員7名、合計12名が参加しました。

初めに小棹理子教授よりアクティブラーニング(A-L)の定義やルーブリックという評価方法の概要が説明された後、ルーブリックを取り入れた授業評価の実例の紹介がありました。ここでは問題提起として、「評価」には定量的な価値判断をして順位づけを可能とするEvaluationと、改善を促すことにつながるAssessmentの2種類があることが示されました。

Assessmentの役割を果たすルーブリックにおいて、

①公平な評価が可能になる(複数の教員で担当する場合も有効)、②迅速なフィードバックができる、③授業改善につながる、というメリットを持つという前提から実際の授業に取り入れた実例が紹介されました。



その説明の後、3名ないし4名のグループごとに普段の取り組み内容や互いの問題意識を共有する話し合いを行い、それぞれのグループでの話の内容を発表いただき全員で共有する形で会を進めました。発表された内容や参加された方々に最後に書いていただいた振り返り用紙の記載内容から、概ね次のようなことがらについて共有できたと感じました。

高校、大学とも評価の難しさについては共通する悩みを持ちながら、日々の授業運営を行っている。評価項目をつくるプロジェクトに学校として取り組まれている高校もあり、具体的な評価方法を考えていかざるを得ない状況にある。しかしながら、定量的な価値判断をするEvaluationが、特に大学受験への対応において高校では必要とされるため、Assessmentの役割を果たす評価方法との共存をどう図るかということの方針が見いだせていない。

また、個々の授業評価においても、評価項目を事前に示してAssessmentの役割を果たす評価を行うつもりでも、生徒・学生が評価項目を意識することに縛られた学習をすることがありうることに懸念されること、複数教員間での主観的な評価によるばらつきをどう調整するかという方法を考えなければならぬ点など、解決できていない課題が複数ある。高校では、現時点でも同一科目で共通のテストが行われておらず、担当教員間での情報共有が十分でないと思われる場合もある。

(裏面に続く)

このように検討すべきさまざまな論点がある中、短い時間の少人数の研究会ではあるものの、連携高校と湘北短大の教員間のみならず、高校の教員間、湘北短大の教員間での情報交換、情報共有を行うことができませんでした。単独の高校、大学の中だけでは日々の業務に追われて行い難い議論が、所属組織を超えてメンバーが集まることで行うことができました。参加者からは、「アクティブラーニングやグループワークなど、言葉に惑わされていたところが今までであったが、できる範囲で取り入れていきたいと感じた。」「授業づくりの基礎としてグループワークの必要性を感じました。組織でつくりあげる授業が学校現場では難しく、アクティブラーニングをこれからの授業改善の一助として取り組んでいきたいと感じています。」などの感想をいただきました。また、「A.Lやグループワークについては、今後も議論が必要で、発展上の課題ですので続けての研究を望みます。」との声もあり、引き続き次年度以降も、単純に答えが求まるものではない問題に向き合い続けるために、この研究会を継続的に開催して、『小さな研究会』が『大きな意義』が果たしていけることを期待しております。(了)

第6回目の研究会はH27年9月に図書館に新設されたアクティブラーニングスペースで行われました。閲覧席としてはもちろん、授業やゼミなどでも活用されています。



平成28年度入学者向け
コミュニケーションリテラシー開講

日程

- A 平成28年2月8日～12日
- B 平成28年2月9日～16日
- C 平成28年3月14日～17日
- D 平成28年3月15日～24日

※右記日程のうちそれぞれ4日間



開催概要

湘北短期大学リベラルアーツセンターでは、入学予定者を対象とした大学入学前授業として「コミュニケーションリテラシー」を開講しております。大学や社会が必要とされるコミュニケーション能力を発展させることを目的としたものです。全15講(入学前12講、eラーニング)を通じてひとつのテーマにそってグループでまとめあげる楽しいプロジェクトを体験します。

これまで当科目を受講した入学予定者のアンケートでは、「高校と短大での勉強の違いがなんとなく分かった」「入学前に短大の施設や先生方を知ることができた」「入学後、積極的に短大生活に取り組みたいと思った」という結果が得られました。また、「当科目を人に薦めますか?」という質問には、今回A B日程の受講生計240名のうち99%の方が「はい」と答えています。

【コミュニケーションリテラシー

A B日程(2月8日～16日実施) 授業風景】

【1日目】ノンバーバルコミュニケーションの重要性



【2日目】図書館の活用と検索、コミュニケーションの基本



【3日目】問題の発見、情報の分析、MS-Office群の活用



【4日目】問題解決、プレゼンテーション

